

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (16)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

Trump 大統領はまたも側近の要人を解任した。9月に大統領補佐官で国家安全保障問題担当 [Assistant to the President for National Security Affairs (NSA)] の John Bolton 氏を、対外政策での意見不一致が理由での解任であった。特に対北朝鮮やイラン問題などに強硬派の Bolton 氏が Trump 大統領の側近にいて大変よいと思っていた矢先、彼が退いてしまうと Trump 政権の今後の対外政策に不安はないであろうか？

目下、Trump 大統領には新たにウクライナ疑惑が湧き上がってもいる。しかし彼はびくともせず、これを The Greatest Witch Hunt in the history of our Country ! (October 1, 2019) とツイッターに書き込みもしたが、すでに来年 (2020 年) の大統領再選へ向けた動きは水面下で活発化している。再選で 2 期目 4 年間を視野に入れた ‘Trump : Keep America Great ! 2024’ という支持者のスローガンすら見る。

日々のニュース報道はその場限りで次々と忘れ去られていくが、今年のこの時期に騒がれた話題をさかのぼって追ってみる。(1)はカリフォルニア州での山火事に関してである。Trump 大統領は民主党の地盤でもあるカリフォルニア州には当初から何かと不満を抱いている。(2)は中間選挙でフロリダ州の投票に不正があったというものである。

(1) There is no reason for these massive, deadly and costly forest fires in California except that forest management is so poor. Billions of dollars are given each year, with so many lives lost, all because of gross mismanagement of the forests. Remedy now, or no more Fed payments ! (November 10, 2018)

▲Trump 大統領はカリフォルニアでのこれほど大きく、恐ろしい、多大なコストのかかる山火事は森林管理のまずさにあるとした。毎年、何十億ドルの支援があっても、これほど多くの犠牲者が出たのは森林管理が問題で、これを改善しなければ連邦政府からの支援はやめるという内容である。元来が快適な気候のカリフォルニアも、近年は地球規模の温暖化による気候変動(climate change)で空気が乾燥しているわけである。

第一文の下線部は There is no reason for X except that Y (X の理由は Y 以外にない) の相関関係。最初の太線語 forest の原義は「家のドアの前方にあるもの」である。forest は {for (= before) + est (= to be)} で、有史以前の印欧祖語族にとって家屋のドアを開ければその前方にあるのは果てしなく広がる森林であったわけである。PIE etymon は /DER/ とされ、[d] の音をもつ Basic 語にまさに **door** があり同系語 (**for** も同系語)。

謎掛けなら「forest (森) と掛けて何と解く?」、「door (ドア) と解く」、「その心は?」→「どちらも家の前面・前方(for)にあったもの」ということになる。un-Basic 語 foreign (他の・異物の・外国の) も同系で、foreign [fo(r) (= before) + reign (= rule)] である〔このあたりの解説は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(10)参照〕(備考：ここですべて断っておくが同拙著 p.52、試問 1 の 1) ②の forest はミスで、Basic 語の for と訂正)。

次の太線語 remedy は「元の状態に再び戻す(治す)こと」の意味で、Basic 語 **medical** と同系である。他にも多くの同系語が一括される〔同上拙著、第二部、例(28)参照〕。

なお、medical (医療の) に対し、un-Basic 語 clinical (診療の) の原義は？語根部

は cli で音声[kli], [klai]には「傾くこと」の意味がある。本連載(3)の冒頭で climate, recline, incline の例を挙げ扱った。climate は赤道から南北への地軸の傾きで起こる気象である。clinical には「ベッドに臥すこと→ ベッドに傾くこと」の意味がある。

これも謎掛けなら「clinical (臨床の) と掛けて何と解く?」、「climate (気候) と解く」、「その心は?」→「どちらも傾くことで前者は身体が、後者は地軸が傾くことである」のようになる。

文中の 3 つ目の下線部は **with で導かれる付帯状況例**で、注目すべきであることを前にも強調した。I.A. Richards, and C.M. Gibson (著) *English through Pictures* (EP I, II)には、こういう with は **Book I では提示されず、Book II の本文で2例と Workbook で 4 例の 6 例扱われる(というより 6 例しか扱われない)**。その 6 例を以下に示しておくが**数が少なく、頁も飛んでいて**本当には身につかないであろう。lexical item (語彙項目) の EP での提示順序の組み換えと再編成上で考慮されるべきものの 1 つだと考えている。

- Do this with your eyes shut. (EP II, p.113)
- The seat, with the man in it, keeps on turning round at the same rate. (EP II, p.129)
- The city* has a great harbor with ships coming in from everywhere. (EP II, Workbook, p.198) (*city : un-Basic word)
- With his brother there, William is making another attempt. (EP II, Workbook, p.212)
- There they saw a new little house with some land round it. (EP II, Workbook, p.237)
- At last Mr. Wood, with his eyes only half open, got up and said ... (EP II, Workbook, p.281)

この類の **with** の重要性からすれば I am here. ⇔ with me here / He is there. ⇔ with him there 等々のように、両者をセットで提示する EP 再編成法も考えられよう。語彙的ばかりでなく、統語的にも「**近いものは近づけよ**」である。陳述(statement)は多々、状況(situation)としての付帯状況(attendant circumstances)とも平行する。その点、文学作品では E. Hemingway の小説などは特別に示唆に富む。

(2) The Florida Election should be called in favor of Rick Scott and Ron DeSantes in that large numbers of new ballots showed up out of nowhere, and many ballots are missing or forged. An honest vote count is no longer possible — ballots massively infected. Must go with Election Night ! (November 12, 2018)

▲ 昨年(2018)の 11 月 6 日の中間選挙で、南部フロリダ州の上院では共和党の Scott 氏、知事選ではやはり共和党の DeSantes 氏がリードしたが、両氏とも民主党候補者とわずかな差であったので得票数の再集計を行うこととなった。Trump 大統領は再集計は行わず両氏の勝利とすべきだとした。どこからともなく大量の票が出てきたり、多くの票が行方不明、または偽造されたりで、公正な票集計はもはや不可能で「選挙日の夜の決定に従わねばならない!」と言った内容である(最終的には共和党の両氏が当選した)。

太線の地名 Florida はスペイン語 flor = flower を経由している。なお、Basic 語 **flower** の PIE etymon (印欧祖語の語根音素形) は/BHEL/とされ、「光により色彩に変化が生じること」の意味をもっている。語頭に[b]の音声をもつ Basic 語の同系語 **blood, blue, black, blade, etc.**は祖語の痕跡を残している。また flower 以外にも[b]が[f]となった Basic 語 **flame, fire** も同系であるし、un-Basic 語 flour (穀粉・小麦粉)

とも同系。さらにやはり un-Basic 語 bloom, blossom, flash, flourish (繁茂する)、foil (金箔) など色彩の変化という点で一括される〔同上拙著、第二部、例(64)参照〕。

次の太線語 ballot (票) は{ball + ot (= small)}で、PIE etymon が/BEU/ (BHEU/) とされ「丸く膨れること」の意味をもつ。投票がかつては丸い玉を用いてなされたことに由来するが、同系語に Basic 語 **ball, bulb, bag, bell**, etc.、プラス α Basic 語 *bubble* (泡)、*ballet* (バレエ・舞踏劇)、un-Basic 語 bulletin {bull (= ball) + etin (= small)} (公報・会報・紀要)〔これは小丸の印鑑の押された公的文書から来た〕、belly (腹)、bullet (弾丸)、bulge (膨らむ) などがある〔同上拙著、第二部、例(136)参照〕。

太線の Basic 語 **and** は PIE etymon /EN/に由来し Basic 語 **in** などと同系で、空間的な意味である。また、and に対し Basic 語 **but** は/UD/ (/UT/)からで[b(<by) + ut (= out)]と要素分解でき、空間詞の Basic 語 **out, about** と同系〔同上拙著、第二部、例(130), (131)参照〕。なお、太線の Basic 語 **or** は **other** の短縮形。

下線部 Must go with Election Night! では with がポイントで、その語感を感知したい。上でも示したように「選挙日の夜の決定に従わねばならない!」の意味となる。Election Night の前に冠詞の the は略式のカジュアルな文では省略もされる。

フロリダ州など南部は敬虔なキリスト教徒が多く、バイブルベルト(Bible Belt)とも言われるが、Trump 大統領はこの時、2020 年の大統領選も念頭にここに相当な力を入れ選挙戦に臨んだ。また、北部・東部のかつて重工業で栄えた低中所得者の白人労働者の多いラストベルト (Rust Belt: さびた工業地帯) の州にも特別な力を注いだ。なお、コーンベルト(Corn Belt)は中西部のトウモロコシの栽培地帯である。corn は「穀粒」が原義。Basic 語では **curve, record**, etc.は同系〔同上拙著、第二部、例(14)参照〕。

Bible といえば、文字を書いたゲルマン系の beech (ブナの木) から Basic 語 **book** が生まれたが、一方 Basic 語 **paper** がギリシャ系の papyrus (パピルス) からで、この植物繊維がエジプトから地中海東部のフェニキア(Phoenicia)の港 Bublos 経由でギリシャに渡り、ギリシャ語 biblia (ラテン語ではない) から Bible (書き物) となったとされる。ラテン系の Basic 語 **library** も系統は同じ。印欧祖語の音素形は/BIBLI/である。なお、スペイン語では book は libro、paper は papel、Bible は Biblio、library は biblioteca である。また、rust (さび) の同系語を Basic 語に求めれば **red** がある。